



2016



Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2015 - 16 会長主題

一人ひとりが賜物。もっと発酵、もっと発信！

あずさ部長	標 克明 (甲府)	「ワイズメンとして一歩前進」
東日本区理事	渡辺 隆 (甲府)	「原点に立って、未来へステップ」
アジア地域会長	Edward K. W. Ong (シンガポール)	“Through Love, Serve” 「愛をもって奉仕をしよう」
国際会長	Wichian Boonmapajorn (タイ)	“Mission with Faith” 「信念のあるミッション」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上妻英夫 / 書記 鈴木田通夫 / 会計 尾内昌吉・金本伸二郎
直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功徳文夫 / 担当主事 沖 利柯

2016年1月 ＜IBC/DBCの月＞	
と き	1月19日(火) 18:30～
と ころ	山手センター 101室
受付	尾内規子さん、飯野毅与志さん
司会	中村孝誠さん
開会点鐘	会 長
モットー・ワイズソング	一 同
聖句朗読・祈祷	鈴木田通夫さん
ゲスト・ビジター紹介	会 長
会 食	一 同
ハッピーバースデー	
楽しい歌	鈴木田祐子さん
卓話	「中国・北京の福祉研修」 (北京YMCAの取組等) 東京世田谷クラブ 寺門文雄さん
ニコニコ	一 同
山手Yの小窓から	担当主事
諸報告	担当主事、会長
閉会点鐘	会 長

当番[第2班] 中村、尾内(規)、鈴木田、飯野、

1月 HAPPY BIRTHDAY	
金本 伸二郎さん 27日	

会費の納入は、会計(尾内君)への納入または
下記銀行口座への振込みをお願いします。
三菱東京UFJ銀行 高田馬場駅前支店
普通 3548431「東京山手ワイズメンズクラブ」

ワイズメンズクラブ モットー
『 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う 』 “ To acknowledge the duty that accompanies every right ”

今月の聖句
主はこう言われる。バビロンに70年の時が満ちたなら、わたしはあなたたちを顧みる。わたしは恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す。わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。 エレミヤ書 29章 10, 11節

12月報告			
会員在籍数			18名
例会出席者	メ	ン	15名
		メネット	一名
ゲスト・ビジター			一名
会員出席率			83%
ニコニコ	8,600円	(累計 39,384円)	
B F	国内切手 1.6kg	外国切手	-kg



12月拡大ヨルダン会 報告

12月15日(火) 13:30~

山手センター 102号室

出席：浅羽、上妻、飯島、飯島(愛)、飯野、尾内、
尾内(規)、金本、功能、鈴木田、鈴木田(祐)、
田尻、中村、増野 14名

司会 上妻

クリスマスの祝会は山手センターの会員クリスマスに参加した(別項)ので、この日は拡大ヨルダン会という形で開かれた。会食は江戸の味「深川めし」の弁当を楽しんだ。懇談の最初に浅羽会長から、来期のクラブ役員案と1月以降の例会プログラム案について説明があって、その後は、みんなが自由に楽しく話す会になった。

トップバッターは浅羽さん。山手クラブの会長のほか区のユース事業主任でもあり、またYMCA同盟にも関係していることから、外に出て他クラブの人と会うことが多く、ユニークな機会だと思う。ユースで何かやろうという体制にはなっていない。ユースが主役になっていくことを願っている。

鈴木田さん。私の関係するキングスガーデンでは施設長が素晴らしいと施設全体が良くなる。台湾、北京から視察団が見えるなど、嬉しい毎日を送っている。

鈴木田祐子さん。エノケンや金語楼のいた浅草が大好きで、月1回は浅草の小屋に行っています。

飯島愛子さん。北海道で足を骨折して松葉づえをつけていたがやっと治り、出席しました。

金本さん。9月に娘の留学しているトレドに行ってきた。車で走り回ったがワイズ発祥の地には行けなかった。残念。次の機会に期待している。

尾内さん。12月午餐会の卓話者の太田愛人さんが理事長をされている「愛の家」は私の家の隣にあり、びっくりした。来年の国際大会は台湾です。皆さんいっしょに行きましょう。

尾内規子さん。リハビリで奈良さんと金曜日にお会いしています。

功能さん。ある集りのため八王子市の南大沢に初めて行ってきた。多摩の丘陵地にニュータウンが広がり首都大学東京があり、びっくりした。

中村さん。旧戸塚村の集りに出席したところ、中村姓が多かった。天祖神社のしめ縄づくりをした。

飯野さん。10月の町会長さんの卓話はとても楽しかった。地域でユースが活動することを期待。

増野さん。歳を感じる。昔のものを整理したら、映画評が10冊以上、大学時代のノートや日記も出てきた。

飯島さん。牧師を5年、教会の教勢は上がらないが、どん底だった幼稚園はV字回復しエレベーターを取り換えた。全体的にはバラ色の年だった。

田尻さん。肺炎で入院、7月から現場復帰した。12月12日にアジア学院の卒業式に出席、16か国28人の研修生が卒業した。学院の施設は新しくなっていた。

上妻さん。立って話すのは東京クラブにいたときに仕込まれた。85歳になった。マカオに行ってきたが、マカオは旧ポルトガル植民地で世界遺産が31あり、カジノで大きな収入がある。

当夜は沖さんが欠席のため、代って沖津さんから会員クリスマスの事など山手センターの報告や、国際協力のためのタオル募金（12枚セット500円）のアピールがあった。閉会後にタオルがどんどん売れました。（功能 記）

.....

山手センター

温かい会員クリスマス

鈴木田通夫

恒例の山手センター会員クリスマスが12月6日（日）夕刻6時から開催された。

第1部ではクリスマス礼拝が行われ、司会は越智京子さん、奏楽はテイガイゲンさんで進められ、日本基督教団行人坂教会の朝日研一郎牧師から「希望のともしび」と題して説教をいただいた。動物の赤ちゃんと人間の赤ちゃんをその誕生から生れる様子、成長、発達の違いを比較し説明された。そのような人間に、神はひとり子イエスを人間として地上に生れさせた。イエスは辛酸をなめつくされ、人間の心の中のをすべてを知り尽くし、その人間の救いのために命を捧げられた。そこに私ども人間にとって「希望」があり「ともしび」があるのだ。ピンチヒッターとして奏楽を担当された新部聖子さんの友人テイガイケンさんのピアノ演奏に出席者はたいそう心打たれた。

第2部は2階に移り、受付で手にしたプログラムに記された図柄に従って座席が定められた。テーブルには寒い夜食に一番の鍋料理、温かい料理に笑顔と舌づつみが生まれた。山手センターの若いリーダーたちが食材の買物から調理の下準備をしてくれた。追加の肉、野菜もテキパキと運び込まれ、その姿を見ると、とても好感が持てた。参加されたわくわくサロンの方がたは早々と来館され、年々YMCAの雰囲気にも100%慣れられ、越智さんの指導のもと歌におしゃべりに生き生きとした姿、笑顔を見せておられた。

最後にビンゴゲームが行われ、掛け声や拍手が会場に溢れ笑いの中楽しいひと時を過ごし、その後、国際基金の呼びかけがあり、解散となった。

本日の出席者は86人、うち山手ワイズからは、浅羽、飯野、尾内、沖、田尻、中村、増野、鈴木田、鈴木田（祐）の9名でした。

若者は準備、本番、夜遅くまでの後片付けに働いてくれた。ありがとう。その若者と一緒に働かれた沖さん、逆にダウン？12月拡大ヨルダン会欠席となった。お大事に！回復を祈ります。

<私の福島・フクシマ No. 6 >

「ルツ記」を通して

福島を想う

尾内昌吉

私の所属している教会では秋には修養会を行っております。今年は「ルツ記」を読んでそこから学びの時を持ちました。修養会に先立ち4週（ルツ記は4章より成っている）に亘り牧師より説教をうかがい今我々に何を語らんとしているかを学びました。

「ルツ記」は旧約聖書の第8巻目に出てくる優しく、温かく、心休まる、癒し系の物語で、ゲーテが文学上の傑作と賞賛した程の箇所ですので皆さんも一度お読み頂いてはと思います。

修養会では「ルツ記」を読んで今日新しく気づかれたことはありますか？という設問がありました。私は福島の子供たちのリフレッシュキャンプの記事（ブリテン10月号沖館長）を思いおこしました。3000年も前の「ルツ記」の内容と現代の日本で起きている出来事と同じだと感じました。東日本大震災、原発事故によって住む所を失った家族を5年間にわたりキャンプにお誘いし400家族、1000人以上の方々をケアをされていることは、異邦人としてユダヤの地に来たルツを異常なまでに愛をもって支えたボアズ（一族の長老）の話に重なりました。

キャンプを企画し実行しているYMCAがボアズに避難民として参加しているのがルツに重なるのです。記事の中にはキャンプ場にはリーダーと子供たちが広いグラウンドを走り廻り、大人たちはのんびりお茶を飲んだりしてキャンプのプログラムを楽しんだとあります。

9月号には増野ワイズが「福島の人が幸せにならない限り日本の未来はない」と書かれています。ルツが幸せになり子孫を残しハッピーエンドになっているように我々ワイズメンはYMCAを支援し福島の子供たちに将来の日本を背負って立つ若者に成長してほしいと願ってやまない次第です。



第6回

日中韓 YMCA ピースフォーラム（南京）に 参加して

浅羽俊一郎

12月19日から23日まで初めての南京、初めての日中韓ピースフォーラムに参加しました。3カ国からシニア（40名）とユース（34名）、総勢74名が南京YMCAに集結し、平和への歩みを共に考えました。日本からはYMCA同盟を世話役に11の都市Y、2つの学Yから総勢29名。東京Yは廣田総主事と山本和評議員（東京クラブ）と私の3人、そしてアジア太平洋同盟からは南富元（ナンブーワン）総主事（山田公平氏の後任）が参加しました。2004年から始まったこのフォーラムは第5回（広島）からはユースも加えることにしました。今回は戦後70周年ということであえて大虐殺の舞台、南京を会場に選んだとのこと。日本側の勇気は評価されていると思います。それぞれの国で参加者は事前学習で日中韓の近現代史をおさらいしました。会期中言葉の壁に苦勞しながらもシニア、ユースそれぞれ小グループで話し合い、また国別に振り返りの時を持ちました。

2日目は南京大学のリュウ・チェン教授による平和・非暴力についての講義のあと、いよいよ南京大虐殺記念館を訪問。流石に緊張しました。大勢の家族連れ・団体客で混雑している中を、一行は通訳機の説明を聞きながら館内を進むと崩落した当時の塼、掘り出された遺骨、遺品、日本の新聞の切り抜き、床から高い天井までびっしり並ぶ死亡者ファイル、それらを一心に見入る地元の人達。私たち一行の中に日本人がいると気付いた人もいたようです。千羽鶴がいくつも置かれているところでは、広島Yから持参した千羽鶴を参加者全員で奉獻しました。見学中「何故あのようなことを？」という疑問が始終脳裏をよぎったのは私だけではなかったと思います。並べられた犠牲者の顔写真の多くが若者で、その後の悲運をまだ知らない爽やかな表情が強く印象に残りました。

その晩、分団協議で私のグループではまさに先の質問が出ました。言いにくいと言わざるを得ない、という参加者の心遣い。納得いく答えは出なかったものの、私はむしろ参加者が話し合いの中でもYMCA同士という信頼関係を強く感じました。3日目は揚州まで足を運び、日中架け橋の鑑真和尚の記念館、また中韓架け橋の崔致遠記念館を訪問し、仏寺では高僧と平和について和やかな意見交換が出来ました。

22日は3カ国のYMCAのシニア、ユースがそれまでの視察、協議を念頭に今後の活動計画を発表しました。どのYMCAも過去の歴史を踏まえた上で、未来に向けて平和を考えるきっかけを作ること、3カ国のYMCAユースが深い絆を作れるようなプログラムを作ること、などを提案。一方シニア達からは、ここに至るまでの関係者の努力の積み重ねを忘れてはならない、という大切な指摘がなされました。早くも過去の経緯が忘れ去られようとしていたのです。

ところで中国側のもてなしは相当なもので、どの食事会も会場こそ変わっても豪華。円卓を囲んで笑いが弾みました。22日の最後の晩餐ではそれぞれが歌や踊りを披露し、日本勢は“Y-CAMP”コールをリードし会場を盛り上げました。なお、期間中北京YMCAからは蔡総主事一家が参加し、プログラムの合間に東京と北京のパートナーシップの再確認をすることが出来ました。

このフォーラムで私は3カ国の若者が長い時間熱心に話し込むのを目撃し、日中韓YMCAの平和への努力に加えて、3カ国のYMCAユースがエンパワーされるのを見る思いでした。この地道な活動が、多くの障がいや遭遇しつつも続けられることを願うものです。



1月卓話者のご紹介

寺門文雄さん（東京世田谷クラブ）

1936年生れ（水戸市出身）79歳

税理士歴50年（寺門税務会計事務所）

50代半ばに東神大夜間講座を受講後、社会福祉への使命感を持ち愛恵財団の理事長として約15年間、オセアニア地域・北欧等福祉先進国へ民間福祉団体の職員等の海外研修を実施。並行して中国北京YMCAの支援を受け10年程キリスト教福祉施設の実施状況など研修を重ねられた。

現在（公・財）東京YMCA・監事

在京ワイズ合同新年会に出席して

飯野毅与志

1月9日（土）、今回も昨年同様、多摩の桜美林大学アカデミーヒルズで行われました。135名の参加でした。山手からは浅羽、飯野、沖、田尻、戸坂、増野の5名が出席しました。

第1部は桜美林大学チャプレン薛恩峰（シュエコンフン）牧師の礼拝に始まり、第2部は懇親会でした。薛先生は「自分のタレントを生かして生きよう」と話されました。懇親会では、桜美林大学の先生と学生たちによる演奏がありました。ピアノやフルート、トロンボーンで、「星に願いを」、「恋をしたとき」、「銀河鉄道999」、「上を向いて歩こう」などを演奏しました。演奏と歌はとても良かったです。

出席者もみな良い交わりができて、今後、それぞれのクラブで生き生きと良い活動ができると思います。

おたより（12月）

<上妻英夫さん> 「街路樹や一夜で見事黄色なり」今日、前の街路の銀杏が見事に黄色、それも一夜で変相も見事です。

<鈴木田通夫さん・祐子さん> 山手に属し、有志ワイズに指導を受けているわくわくサロンの皆さんはまさに健康集団。Yのクリスマスの夜、91歳のご婦人としばし会話をしましたが、そのお達者ぶりはまさに頭の下がる思いがしました。

<戸坂昇子さん> 委員会と重なり残念ですが欠席致します。皆様心豊かなクリスマスをお迎え下さい。

YMCAニュース

▼YMCAブランディングアンケート結果報告

全国YMCAで取り組んでいるブランディングのイメージ調査へのご協力ありがとうございました。皆様のご協力により、全国で11,301名のアンケート協力を頂き、目標の10,000名を大きく上回る結果となりました。東京YMCAは1,000名の目標に対して、1,340名もの協力を頂きました。

今回のアンケートは、これから進んでいくブランディングに向けて力を合わせる貴重な機会となりました。今後は内外調査が終わり、全国各地でのワークショップ等を経てブランドコンセプトが作られます。その先の浸透作業では引き続き一人ひとりの参画が求められます。ぜひこの力を次の取り組みにもつなげていけるよう皆様のご協力をお願いします。

▼山手センター年末年始プログラム報告

昨年末から今年年始にかけて行われたスキーキャンプ、ウインタースクール、発達障がい児スキーキャンプは全て安全のうちに終了することが出来ました。年末の雪不足によりキャンプ実施自体が不安視されておりましたが、ゲレンデやプログラムを変更したりという工夫をしながら実施することができました。

初めてスキーにチャレンジした子どもたちも全員がリフトに乗り、スキーの楽しさを知ることが出来ました。沢山のボランティアリーダー達の子どもに寄りそう働きの上に成り立っているプログラムです。どうぞ今後も彼らへの御支援を宜しくお願いいたします。

（沖 利柯）

編集後記

新しい年を迎えて、山手クラブのブリテン1月号をお届けします。皆さまのお力添えがあって山手クラブも昨年6月からワイズドットコムによるインターネット配信を開始しました。スタイルは従来通りの山手調で、文字面までカラフルな楽しさはありませんが、中身の点ではもっと楽しくて情報もあるものにしていきたいと願っています。どうぞ、力をお貸しください。おたよりもお寄せください。（功能）